

# 岩屋中だより

令和5年11月21日 NO16

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

## 秋深まる。学びの秋・・・その2

### 英語で表現するあじさいイングリッシュスピーチコンテスト

長崎市では、毎年秋に、英語でスピーチをするあじさいイングリッシュスピーチコンテストを実施しています。夏に予備審査があり、本選が10月21日（土）に行われました。本校から、Mさんが本選に出場し、奨励賞を受賞しました。テーマに沿って伝えたいことを考え、それを文章化し、英語に訳してスピーチするという大変困難度の高いコンテストです。当日は、本番間際まで、練習を重ね、ALTの先生からご指導を仰ぐ姿が見られ、スピーチも、抑揚があり、単に覚えたことを伝えるのではなく、自分の考えを伝えようとする姿が見られ、感動しました。頑張りをたたえるとともに、同じ学校で生活する仲間として、その喜びを共有しましょう。おめでとうございます！

本号では、英訳されたスピーチ文とその日本語訳を紹介します。

タイトル：What I found in Nagasaki

I moved to this city from Shizuoka two years ago. At first, I didn't know anything about this city. However, I've learned to know about Nagasaki's history, tradition, and beautiful nature through everyday classes.

This summer, I had the opportunity to share two women's experiences at school. One of them is an atomic bomb survivor. I was touched by the way she talked about the atomic bomb explosion using photos and maps. It was so shocking that each of her words hit my heart. She even said five years later from now, we will not get a chance to hear about the tragedy of war face to face by a victim like her. I was made to realize this is true. The other is a young woman from Ukraine. She studies at Nagasaki university now. She ended her speech asking us to remember how Ukraine looked before the war. So, I saw photos of wonderful nature in Ukraine on the Internet, which are completely different from the destroyed hospitals and schools on TV news.

Honestly, I took part in peace education passively before. However, since I met the two women, I've become interested in wars and disputes all over the world. We should pass the threat of the atomic bomb and the importance of peace to the next generation.

Now, I have a future dream I want to make come true here in Nagasaki. What do you think it is? It's to be a teacher. I will tell my students what happened in Nagasaki because they will never be able to hear the real voices of the survivors. I also want them to learn about peace and human rights through education. Moreover, I'd like to tell my students from other prefecture about Nagasaki's fascinating things. I believe my future students and everyone will enjoy living in this city like me. Nagasaki is the special place where I found myself.

## タイトル：私が長崎で見つけたもの

私は2年前に静岡からこちらに引っ越してきました。最初はこの街について何も知りませんでした。しかし、日々の授業を通して長崎の歴史や伝統、美しい自然について知ることができました。

この夏、学校で二人の女性の体験を聴く機会がありました。そのうちの一人は被爆者です。原爆投下について写真や地図を使って語る姿に心を動かされました。その方の言葉の一つひとつがとても衝撃的で、私の心に響きました。5年も経てば、実際に被爆した人から戦争が生んだ悲劇について直接話を聞く機会はなくなってしまうとおっしゃいました。私はこれが現実であるということに改めて実感しました。もう一人はウクライナから来た若い女性です。彼女は現在長崎大学に在学中です。スピーチの最後に、戦前のウクライナの様子を私達にいつまでも覚えていてほしいと言われました。そこで私は家に帰ってから、ウクライナの素晴らしい自然の写真をインターネットで見ました。そこで見たものは、テレビのニュースなどに映る破壊された病院や学校とは全く異なる絶景の数々でした。

正直に言えば、私はこれまで平和学習に消極的でした。しかし、この二人の女性と出合ってから、世界中の戦争や紛争について知ることに関心を持ち始めました。原爆の恐ろしさ、平和の大切さを次の世代へと伝えていくべきだと強く思います。

今、私はここ長崎で叶えたい夢があります。何だと思いませんか。それは学校の先生になることです。私は長崎である時何が起こったのか、生徒達に伝えたいのです。彼らは生き残った人々の生の声を聞くことはできないのですから。さらに、学習を通して、平和や人権についても学んでほしいと思います。また、他県から来た生徒にも長崎の魅力を教えていきたいです。未来の自分の生徒達、そしてすべての人々が、私と同じようにこの街での生活を楽しくしてくれると信じています。長崎は私が自分自身を見つけた特別な場所なのです。

## 技術科の作品が県代表として全国大会へ出品

県の技術家庭科作品展で、2年生のHさんの作品が、長崎県代表となり、全国大会に出品することになりました。全国大会に出品されたことを皆さんで喜び、共有したいと思います。おめでとうございます！

私は、中学校の頃、技術の時間が全教科の中で一番好きな時間でした。私は年をとっているのに、男子が技術科、女子が家庭科という履修形態でした。えっ？と信じられない人も多いと思います。技術の時間には、製図を書いたり、椅子や本棚を使ったり、掬を栽培したり、塵取りを金属で作ったり、スマートフォンを作ったり、ツーサイクルのエンジンを組み立てたりしました。器用ではなかったのに、素晴らしい作品をつくることはできませんでしたが、週に3時間ある技術の時間は大変楽しみだったことを記憶しています。



モノづくりは、楽しく、創造性もあり、何より、社会を成り立たせる基礎となるものですね。